

インドのむかしばなし

今から2500年ほど前の話です。インドに偉いお坊さんがいました。そのお坊さんにシュリハンドクという若い弟子が付いていました。シュリハンドクは物覚えが悪く、朝聞いたことを夕方には忘れてしまうほどでした。そのことをみんなに馬鹿にされ、自分で自分が情けなくなって、ある日お坊さんにこう言ったのです。「私は人に馬鹿にされ、すこしも偉い人になれません。もうやめさせてください。」するとお坊さんはシュリハンドクに一本のほうきを渡し「何も心配はいりません。このほうきできれいにしましょう。」と言ったのです。

それから毎日、シュリハンドクはそのほうきで掃除を続けました。ある日、庭をきれいにしていると、お坊さんが通りかかってこう言いました。「ずいぶんきれいになりましたね。でも、もう一カ所だけきれいになっていないところがありますよ。」シュリハンドクは不思議に思いました。庭はどこも汚れていなかったからです。そこで、お坊さんに「どこが汚れているのですか。」と聞いたのですが教えてくれませんでした。それから毎日、シュリハンドクは黙って掃除を続けました。そしてある日、はたと気がついたのです。「そうか、汚れていたのは場所ではなく、自分の心なんだ。」と。そのとき、後ろに立っていたお坊さんが言いました。「これで全てきれいになりましたね。」と。

皆さんは、お坊さんが言った意味がわかりますか。掃除を「面倒だ。さぼりたい。楽をしたい。おしゃべりしながらやりたい。」と考えたことはありませんか。これらは心の汚れです。掃除を黙って、一生懸命することは、その心の汚れをきれいにするにもなるとお坊さんは教えたのでしょ。この教えがわかったシュリハンドクは、ますます掃除に精を出し、多くの人に尊敬される立派な人になったということです。

心もきれいにする掃除、そのポイントは黙ってやることです。「無言清掃」を行うと集中力も身につけてきます。何より、全員が黙々と掃除をしている姿はカッコいいです。

「無言清掃」を今年1年間やり遂げましょう